

＜学校名＞ 桶川市立桶川西小学校

＜所在地＞ 桶川市下日出谷 8 3 6 - 1

＜電 話＞ 0 4 8 - 7 8 6 - 3 7 6 0

＜本事例の特徴＞

3年生から外国語活動の授業がスタートする。外国語活動の授業は、多くの児童にとって英語に触れたり、異文化に触れたりする初めての機会である。学習初期から相手や目的、場面を意識したコミュニケーションを経験させることで、高学年でも意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する事例を紹介する。

＜具体的な取組や成果＞

○外国語活動 Let's try 1 Unit7 This is for you

1 本実践の目標について

本単元は、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝えあうことができるようになることや、相手に伝わるように工夫しながら話すことができるようになることが目標である。児童は「相手が喜ぶグリーティングカードを送る」という題材のもと、相手がほしいものを尋ねるための表現を学習し、それを生かしてコミュニケーションをとる。

2 本実践の流れについて

(1) 単元の導入

単元の導入では、教師がALTとの small talk で、クリスマスプレゼントで何がほしいか尋ね合った。実際に欲しいものを知り、簡単な絵を描いてプレゼントする様子を見せた。その後、児童にも質問し、実際に児童がほしいものの絵を描いてプレゼントした。児童は実際にプレゼントをもらい、うれしい思いをしたことから、実際に自分たちもプレゼントしたいという気持ちになり、相手意識や目的意識をもって活動に取り組む様子が見られた。

(2) 具体的な活動

まず児童は、ペアの好きな色や形、物などを尋ね合った。この活動の際も、「相手が喜ぶメッセージカードを送るため」という目的意識をしっかり持たせることで、練習の必要感を高めた。児童は、相手の言ったことを必死に聞き取ろうとしたり、相手に伝わるようジェスチャーを工夫したりしていた。

その後、相手の好きなものをメッセージカードで作るために、お店屋さんごっこを通して必要な材料を集める活動を行う。目的や場面設定を明確にすることで、何とかして自分の思いを伝えようとする態度やそれを必死に聞き取ろうとする態度を育成することもねらいとしている。

3 本実践の成果

コミュニケーションにおいて、目的や場面、相手を意識することで、児童がジェスチャーなどを交え、伝えようとする姿勢が見られ始めた。高学年の外国語科におけるコミュニケーションの素地となる資質・能力を引き続き育成していきたい。